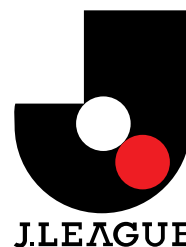


J.LEAGUE NEWS

Official News Letter
vol. 129
28.Sep.2006



編集・発行
社団法人日本プロサッカーリーグ
ホームページ <http://www.j-league.or.jp>

Amazing, J.

スポーツで、もっと、幸せな国へ。Jリーグ百年構想



C大阪 風巻氏提供

U-15 Jリーグ選抜チーム ブラジル遠征 Jリーグ・アカデミー海外研修

Jリーグは、8月24日からブラジルのリオデジャネイロで開催された第9回ブラジル-日本(日伯)友好カップに、U-15 Jリーグ選抜チーム(選手21名、スタッフ6名)を派遣した。本大会は、フラメンゴ、フルミネンセ、グレミオなどのブラジルU-15年代の一流チームが参加するレベルの高い大会で、2003年と04年はU-15日本代表が参加、昨年からJリーグ選抜チームが参加している。

また、8月23日から9月3日までJリーグ・アカデミーのブラジル研修を実施し、Jクラブ育成センターの指導者、都道府県サッカー協会育成担当者ら30名が参加した。02年からスタートし、これまで欧州を中心に研修を実施してきたが、今回初めて南米を訪れた。日伯友好カップを視察したほか、サンパウロFC、フラメンゴ、ナショナル、ボタフォゴなどのプロクラブを訪れ、練習視察、強化・育成担当者とのディスカッションなどを行った。ブラジル国内の社会環境、教育事情に触れながらサッカー大国ブラジルの選手育成について学ぶ有意義な研修となった。

J.League Official Sponsors

Calbee

Canon

SUNTORY

JOMO

NicoS

KONAMI

AIDEM

HEIWA

GE Money

Network Partner



League Cup Sponsor

ヤマザキナビスコ

Jリーグ百年構想
パートナー
朝日新聞

U-15 Jリーグ選抜チームブラジル遠征

日伯友好カップ

Jリーグ選抜チームは、3試合を戦い1分け2敗となったが、試合を重ねるごとに選手たちのチャレンジが目立つようになった。参加選手は、ブラジル人選手とのメンタル、テクニックの差を個々に感じ取り、課題を持って帰ってきたようだ。日伯友好カップには、鹿島アントラーズジュニアユース、アントラーズノルテの2チーム（U-15）も参加。Jリーグ選抜と交流を深めたほか、鹿島の選手たちも積極的にゲームにトライし、異文化交流を楽しんだ。

大会は、フルミネンセがコリンチャンスを決り見事優勝を飾った。



Jリーグ選抜を率いた上野山信行監督（ガンバ大阪）：大会に当たり、選手には持っているものを出し切ろうと声をかけた。身体能力が高いことだけが競り勝つ原因ではなく、ボールを絶対に取りたれないという強い気持ちが強いプレーを生み出しているのだということに気付いてほしかった。選手たちは試合を重ねるごとに自信を付け、積極的に意見を示すようになった。



プロの試合観戦

ブラジル選手権の公式戦を3試合観戦。



F東京 福井氏提供

ビーチサッカーへの参加

貧しい家庭の子供を集めたリオデジャネイロのチームと試合を行った。現地の子供たちの生活を目の当たりにし、日本での生活面を見直したいと意識を新たにした選手もいた。



Jリーグ・アカデミー海外研修

サンパウロFC

昨年のFIFAクラブワールドチャンピオンシップ（日本開催）でも優勝した実績を持つ強豪サンパウロFC。充実した施設環境と、特にユース年代への重点的な投資と選手育成システムが明らかになった。

総合スポーツクラブ

サンパウロFC、フラメンゴ、ナショナルなど、クラブの大小にかかわらず、ブラジルでは多くのプロクラブが総合スポーツクラブとして運営されている。サッカー施設のほか、バレーボール、バスケットボール、陸上競技、ボクシング、水泳などの施設が整う。会員は、クラブの施設で好きなスポーツを楽しむ。



サンパウロFC柔道スクール



育成コーチとのディスカッション

サンパウロ日本人学校訪問

日本人学校としては南米最大の規模を誇る。小学部、中学部、高等部などがあり生徒数164名。校舎、体育館、グラウンドなどのほか、コーヒー園やバナナ園も併設。参加したJクラブ指導者らによるサッカー教室を行った。



ストリートサッカー

各所で見られたサッカーの風景。研修一行も、バスを止め、飛び入り参加で現地の人々とのサッカー交流を楽しんだ。



G大阪 鴨川氏提供

ジョルジーニョ スポーツ教育センター訪問



サンパウロ市提供の土地に、ジョルジーニョ（元鹿島アントラーズ）氏が設立した学校を訪問。近隣の貧しい子供たちを対象に、犯罪を減らし、スポーツをきっかけにした教育、社会性育成を目的としている。

鹿島 黒崎氏提供

決勝は鹿島vs千葉

11月3日、東京・国立競技場でキックオフ

2006 Jリーグヤマザキナビスコカップは9月2日、3日に準決勝第1戦、同20日に同第2戦が行われ、鹿島アントラーズとジェフユナイテッド千葉が決勝にコマを進めた。鹿島は3年ぶり6度目、千葉は2年連続3度目の決勝進出。それぞれ4年ぶり4度目、2年連続2度目の優勝を目指す。

アウェイの第2戦で横浜 F・マリノスに



1-2と敗れた鹿島は、今季から採用されているアウェイゴール方式の恩恵を受けた。ホームの第1戦は1-0と勝っており、2試合合計スコアは2-2。この場合、アウェイでより多くの得点をあげたチームの勝利となるからだ。

一方、第1戦を川崎フロンターレと2-2で引き分けた千葉は、ホームの第2戦で2点差を追いつかれ延長戦に突入。その終了直前の119分に得たPKを成功させて3-2、2試合合計スコアは5-4で決勝進出を決めた。

決勝は11月3日、東京の国立競技場で14時5分にキックオフされる。

2006 Jリーグ
ヤマザキナビスコ カップ



■過去のJリーグヤマザキナビスコカップ 決勝

開催年	優勝	スコア	準優勝
1992	ヴェルディ川崎	1-0	清水エスパルス
1993	ヴェルディ川崎	2-1	清水エスパルス
1994	ヴェルディ川崎	2-0	ジュビロ磐田
1995	開催なし		
1996	清水エスパルス	3-3 (PK5-4)	ヴェルディ川崎
1997	鹿島アントラーズ	2-1, 5-1	ジュビロ磐田
1998	ジュビロ磐田	4-0	ジェフユナイテッド市原
1999	柏レイソル	2-2 (PK5-4)	鹿島アントラーズ
2000	鹿島アントラーズ	2-0	川崎フロンターレ
2001	横浜 F・マリノス	0-0 (PK3-1)	ジュビロ磐田
2002	鹿島アントラーズ	1-0	浦和レッズ
2003	浦和レッズ	4-0	鹿島アントラーズ
2004	F C東京	0-0 (PK4-2)	浦和レッズ
2005	ジェフユナイテッド千葉	0-0 (PK5-4)	ガンバ大阪

J1

播戸(G大阪)が得点王争いに参入

Jリーグ ディビジョン1 (J1)は、9月17日に全日程のほぼ3分の2となる第23節を終了した。そろそろ優勝争いを演じるチームが絞られてきた感がある。

この時点における首位は、第21節にその座へ振り返ったガンバ大阪。「タフな試合と予想していたが、それ以上に厳しかった」(G大阪の西野朗監督)というアウェイの大部分トリニータ戦(同16日)を2-0と乗り切り、3連勝で勝点を52へ伸ばした。G大阪で好調なのが、大分戦で2点を決め、4試合連続得点のFW播戸竜二。今季のJ1通算を13ゴールとし、外国籍選手が上位を独占する得点王争いに参入してきた。



G大阪を勝点3差でマークするのは、浦和レッズだ。第21節で大分に敗れ3位に後退したものの、その後は2連勝。第23節はサンフレッチェ広島をホームに迎え、なかなか1-1の均衡を破れなかったが、試合終了4分前にMF山田暢久が貴重な決勝点。

同日に試合のなかった川崎フロンターレを抜いて、2位に浮上した。

翌17日、その川崎Fはホームでジュビロ磐田と対戦。J1における5連勝を狙ったが、接戦を3-4でもものにできず、2位復帰はならなかった。川崎Fは浦和を勝点2差で追っている。

一方、J1に残留を目指すチームも、し烈な戦いが続いている。第23節では、最下位だったセレッソ大阪がジェフユナイテッド千葉に3-2と競り勝ち、17位に順位を上げた。16位の京都パープルサンガもFC東京に1-0と勝ち、安全圏内となる15位の広島との差を勝点5に縮めた。

J2

激しい首位争いが続く

昨季の京都パープルサンガ、一昨季の川崎フロンターレと、独走ともいえるチームが優勝を飾ったJリーグ ディビジョン2 (J2)だが、今季は対照的に激しい首位争いが演じられている。9月17日に終了した第40節の段階では、ヴィッセル神戸が首位をキープ。第2節以来、トップの座を守ってきた柏

レイソルは第39節、3位の横浜FCに0-1と敗れ、湘南ベルマーレと2-2で引き分けた神戸と入れ替わった。

神戸は第38節より、スチュアート バクスター監督からバトンタッチした松田浩監督が指揮をとる。第40節では徳島ヴォルティスに先制されながら、逆転して4-1の快勝。



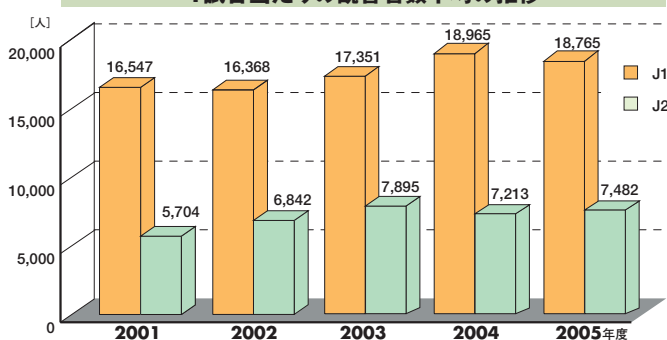
「これまでの流れを断ち切り、ぬぐい去るための大きな1勝」と、監督としての初勝利を喜んだ。

2005年度Jクラブ情報開示

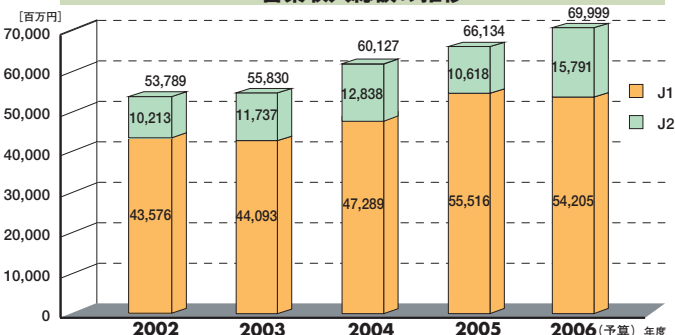
1試合当たりの観客者数

2004年度平均観客者数		2005年度平均観客者数	
【J1】(ホーム各15試合、全体240試合)		【J1】(ホーム各17試合、全体306試合)	
鹿島	17,585	鹿島	18,641
浦和	36,660	浦和	39,357
大宮		大宮	9,980
千葉	10,012	千葉	9,535
柏	10,513	柏	12,492
F東京	25,438	F東京	27,101
東京V	15,059	東京V	14,716
川崎F		川崎F	13,658
横浜FM	24,818	横浜FM	25,713
新潟	37,689	新潟	40,114
清水	13,568	清水	12,752
磐田	17,126	磐田	17,296
名古屋	15,712	名古屋	13,288
G大阪	12,517	G大阪	15,966
C大阪	14,323	C大阪	17,648
神戸	15,735	神戸	14,913
広島	14,800	広島	12,527
大分	21,889	大分	22,080
平均	18,965	平均	18,765
【J2】(ホーム各22試合、全体264試合)		【J2】(ホーム各22試合、全体264試合)	
札幌	9,466	札幌	11,133
仙台	16,198	仙台	15,934
山形	6,420	山形	5,949
水戸	3,773	水戸	3,334
草津		草津	3,959
大宮	6,108	大宮	
川崎F	9,148	川崎F	
横浜FC	4,219	横浜FC	5,938
湘南	4,691	湘南	5,746
甲府	6,370	甲府	6,931
京都	7,807	京都	7,857
徳島		徳島	4,366
福岡	8,743	福岡	10,786
鳥栖	3,610	鳥栖	7,855
平均	7,213	平均	7,482

1試合当たりの観客者数平均の推移



営業収入総額の推移



JリーグはJクラブの経営の透明性向上のため、今回よりJクラブの個別経営情報に加え、2005年度の経営情報を発表した。

2005年は、J1が18クラブ(2クラブ増加)、J2が12クラブの30クラブの編成で、J1も1ステージ制に移行した。

J1の1クラブ当たり平均営業収入は、30億8400万円(前年度比4%増収)と初めて30億円台に乗った。J2は、8億8500万円(構成クラブの入れ替えにより前年度比17%減収)であった。クラブ別売上高規模分布表で見ると、大きな変動はなかったが、営業収入が30億円以上のクラブが2クラブ増加し、計10クラブとなった。

経常利益規模分布表の通り、積極的な補強によるチーム人件費の増加などのため、収益状況が低下したクラブが増え、経常赤字のクラブが前年度の2から11に増加した。

1クラブ当たりの入場料収入はJ1/624百万円(前年度比横ばい)、J2/198百万円(同3%減収)、広告料収入はJ1/1,406百万円(同12%増収)J2/359百万円(同21%減収)、Jリーグ配分金はJ1/333百万円(同13%減収)、J2/126百万円(同33%減収)であった(構成クラブの入れ替えにより、J2はすべての項目で減収となった)。なお、Jリーグ配分金はオフィシャルスポンサー契約形態の変更により例年より多額となった2004年度と比較して減収となった。

クラブ別売上高規模分布表

年度		2004年度(平成16年度)						2005年度(平成17年度)					
規模	摘要	J1	割合	J2	割合	全体	割合	J1	割合	J2	割合	全体	割合
10億円未満		0	0.0%	6	50.0%	6	21.4%	0	0.0%	8	66.7%	8	26.7%
10億円以上20億円未満		2	12.5%	5	41.7%	7	25.0%	3	16.7%	3	25.0%	6	20.0%
20億円以上30億円未満		6	37.5%	1	8.3%	7	25.0%	5	27.8%	1	8.3%	6	20.0%
30億円以上		8	50.0%	0	0.0%	8	28.6%	10	55.6%	0	0.0%	10	33.3%
合計クラブ数		16	100.0%	12	100.0%	28	100.0%	18	100.0%	12	100.0%	30	100.0%

■ 売上高ビッグ5クラブ(北から): 浦和、柏、横浜FM、磐田、名古屋

クラブ別経常利益規模分布表

年度	概要	2004年度(平成16年度)					2005年度(平成17年度)						
		J1	割合	J2	割合	全体	割合	J1	割合	J2	割合	全体	割合
規模													
0円未満		2	12.5%	0	0.0%	2	7.1%	5	27.8%	6	50.0%	11	36.7%
0円以上20百万円未満		4	25.0%	2	16.7%	6	21.4%	6	33.3%	2	16.7%	8	26.7%
20百万円以上40百万円未満		1	6.3%	4	33.3%	5	17.9%	1	5.6%	1	8.3%	2	6.7%
40百万円以上		9	56.3%	6	50.0%	15	53.6%	6	33.3%	3	25.0%	9	30.0%
合計クラブ数		16	100.0%	12	100.0%	28	100.0%	18	100.0%	12	100.0%	30	100.0%

■ 経常利益ビッグ5クラブ(北から): 浦和、千葉、F東京、名古屋、京都

クラブ別純資産規模分布表

年度		2004年度(平成16年度)						2005年度(平成17年度)					
規模	摘要	J1	割合	J2	割合	全体	割合	J1	割合	J2	割合	全体	割合
	0円未満	3	18.8%	4	33.3%	7	25.0%	2	11.1%	5	41.7%	7	23.3%
	0円以上50百万円未満	2	12.5%	1	8.3%	3	10.7%	3	16.7%	0	0.0%	3	10.0%
	50百万円以上1億円未満	1	6.3%	2	16.7%	3	10.7%	1	5.6%	2	16.7%	3	10.0%
	1億円以上2億円未満	1	6.3%	1	8.3%	2	7.1%	1	5.6%	0	0.0%	1	3.3%
	2億円以上	9	56.3%	4	33.3%	13	46.4%	11	61.1%	5	41.7%	16	53.3%
	合計クラブ数	16	100.0%	12	100.0%	28	100.0%	18	100.0%	12	100.0%	30	100.0%

■ 純資産ビッグ5クラブ(北から): 鹿島、F東京、川崎、名古屋、広島

クラブ別借入金規模分布表

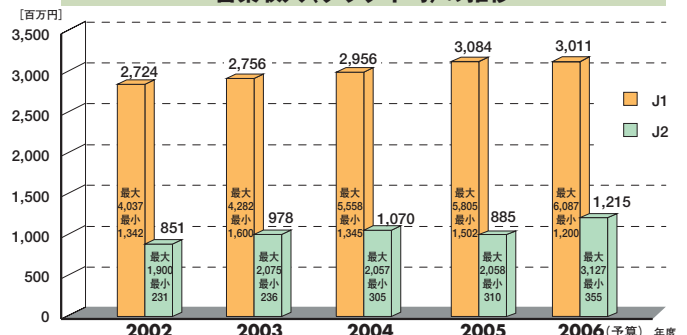
年度		2004年度(平成16年度)						2005年度(平成17年度)					
規模	摘要	J1	割合	J2	割合	全体	割合	J1	割合	J2	割合	全体	割合
0円以下		4	25.0%	3	25.0%	7	25.0%	5	27.8%	3	25.0%	8	26.7%
1円以上50百万円未満		1	6.3%	1	8.3%	2	7.1%	0	0.0%	1	8.3%	1	3.3%
50百万円以上1億円未満		1	6.3%	5	41.7%	6	21.4%	1	5.6%	4	33.3%	5	16.7%
1億円以上2億円未満		2	12.5%	1	8.3%	3	10.7%	0	0.0%	1	8.3%	1	3.3%
2億円以上5億円未満		5	31.3%	0	0.0%	5	17.9%	7	38.9%	1	8.3%	8	26.7%
5億円以上		3	18.8%	2	16.7%	5	17.9%	5	27.8%	2	16.7%	7	23.3%
合計クラブ数		16	100.0%	12	100.0%	28	100.0%	18	100.0%	12	100.0%	30	100.0%

■ 無借金クラブ(北から): 山形、鹿島、F東京、川崎、名古屋、徳島、福岡

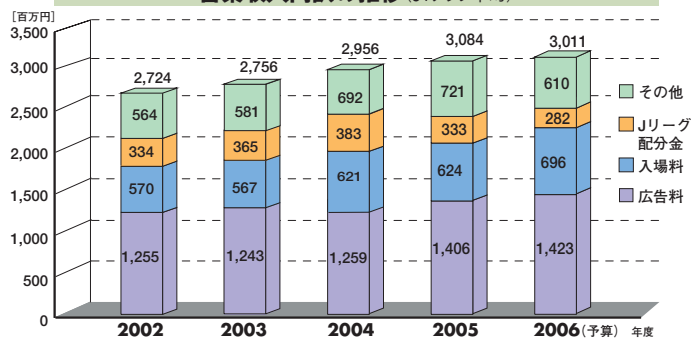
チーム人件費(監督・コーチ・選手) / 売上高比率分布表

年度	2004年度(平成16年度)							2005年度(平成17年度)						
人件費比率	摘要	J1	割合	J2	割合	全体	割合	J1	割合	J2	割合	全体	割合	
40%未満		2	12.5%	3	25.0%	5	17.9%	0	0.0%	4	33.3%	4	13.3%	
40%以上50%未満		11	68.8%	6	50.0%	17	60.7%	12	66.7%	5	41.7%	17	56.7%	
50%以上		3	18.8%	3	25.0%	6	21.4%	6	33.3%	3	25.0%	9	30.0%	
合計クラブ数		16	100.0%	12	100.0%	28	100.0%	18	100.0%	12	100.0%	30	100.0%	
平均比率		46.3%		46.0%		46.2%		49.4%		46.9%		48.9%		

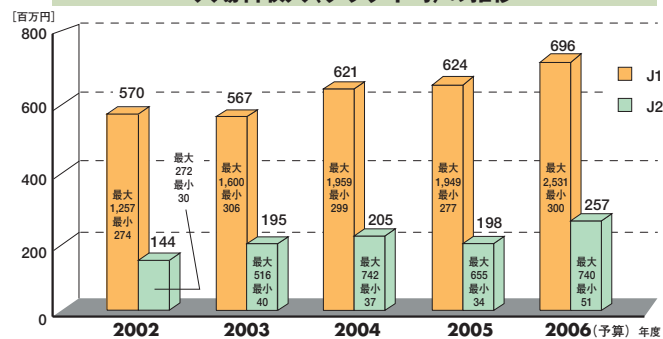
営業収入(クラブ平均)の推移



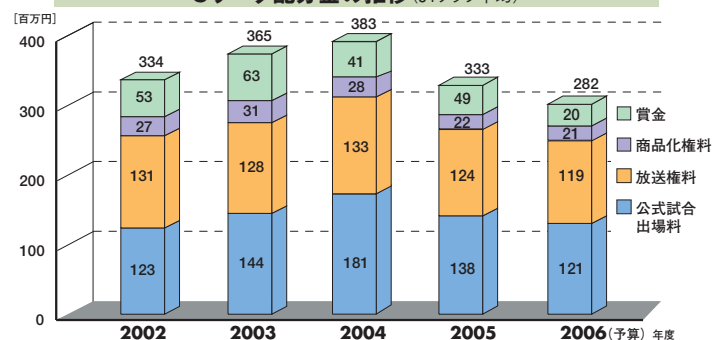
営業収入内訳の推移 (J1クラブ平均)



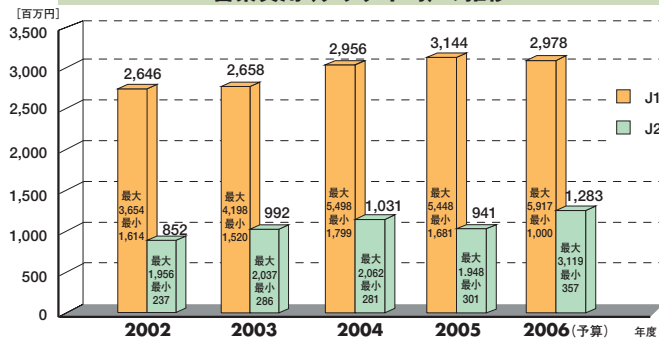
入場料収入 (クラブ平均) の推移



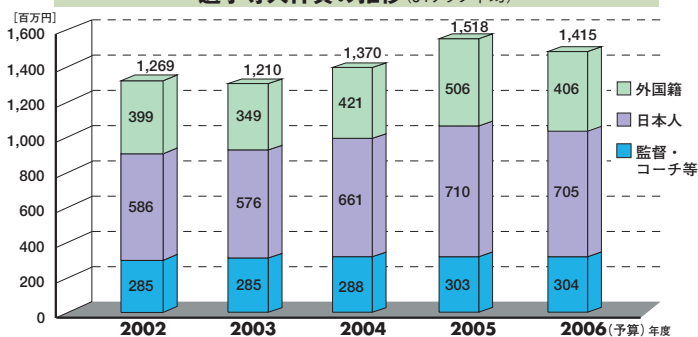
Jリーグ配分金の推移 (J1クラブ平均)



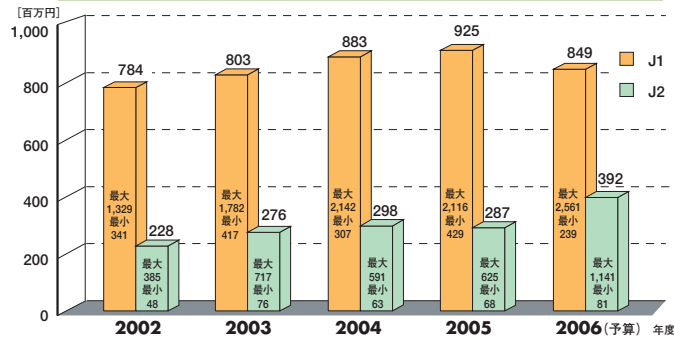
営業費用 (クラブ平均) の推移



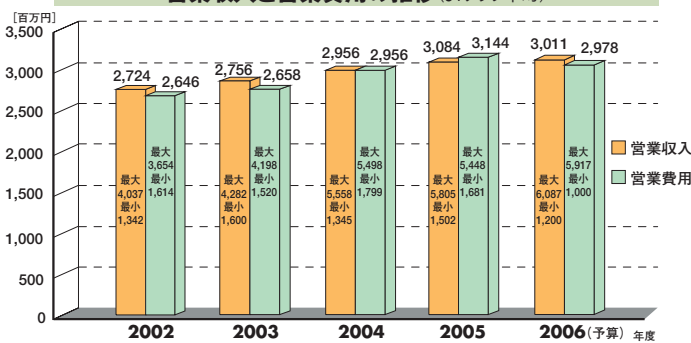
選手等人件費の推移 (J1クラブ平均)



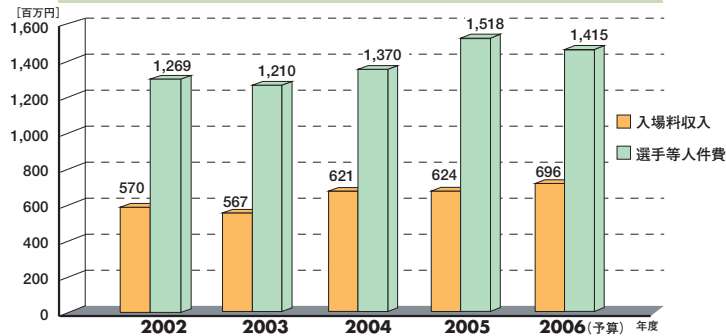
物件費 (クラブ平均) の推移



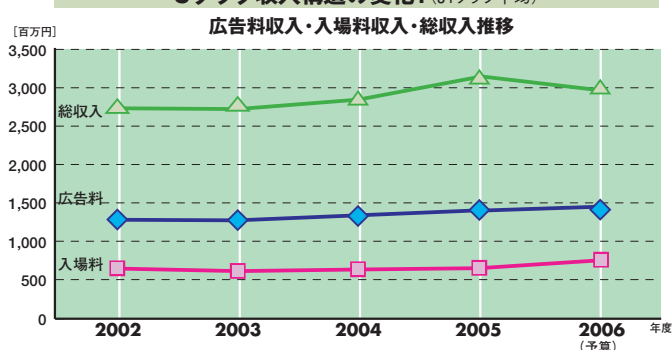
営業収入と営業費用の推移 (J1クラブ平均)



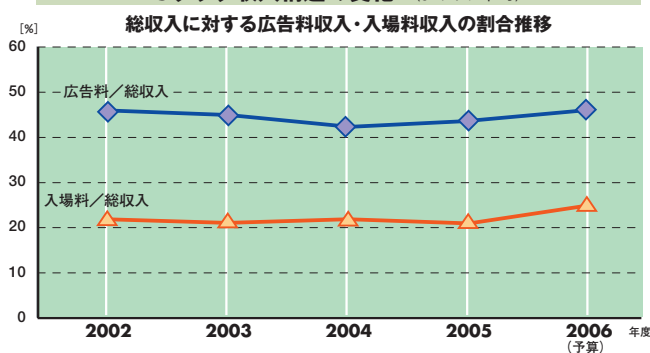
入場料収入／選手等人件費 (J1クラブ平均)



Jクラブ収入構造の変化1 (J1クラブ平均)



Jクラブ収入構造の変化2 (J1クラブ平均)



クラブ名	J1																	
	鹿島	浦和	大宮	千葉	柏	F東京	東京V	川崎F	横浜FM	新潟	清水	磐田	名古屋	G大阪	C大阪	神戸	広島	大分
決算期	平成18年1月期	平成18年1月期	平成18年1月期	平成18年1月期	平成18年3月期	平成18年1月期	平成18年1月期	平成18年1月期	平成18年1月期	平成17年12月期	平成18年1月期	平成18年3月期	平成18年1月期	平成18年3月期	平成18年1月期	平成17年12月期	平成18年1月期	平成18年1月期
■経営成績																		
営業収入	3,156	5,805	2,242	2,722	3,874	3,168	3,077	1,913	4,822	2,639	3,077	3,890	3,720	3,418	2,311	1,876	2,304	1,502
（広告料収入）	1,045	1,660	1,359	1,279	1,782	1,186	N.A.	1,262	2,551	840	1,150	1,704	2,244	1,684	1,110	692	1,276	550
（入場料収入）	690	1,949	311	439	529	797	N.A.	277	933	1,185	469	654	621	506	392	439	346	364
（Jリーグ配分金）	401	549	256	426	250	402	324	231	335	266	270	317	262	552	413	250	238	246
（その他）	1,020	1,647	316	578	1,313	783	481	143	1,003	348	1,188	1,215	593	676	396	495	444	342
営業費用	3,155	5,448	2,232	2,548	3,858	3,054	3,072	1,816	4,816	2,682	3,170	4,073	3,596	3,525	2,283	3,105	2,473	1,681
（事業費）	2,432	4,986	1,648	2,191	3,398	2,387	2,736	1,533	3,896	1,978	2,628	3,349	3,115	2,797	1,599	2,621	1,871	1,498
内選手・チームスタッフ人件費	1,368	2,342	N.A.	N.A.	N.A.	N.A.	N.A.	N.A.	2,105	1,269	N.A.	1,834	N.A.	N.A.	N.A.	1,500	1,107	990
（一般管理費）	723	462	584	357	460	667	336	283	920	704	542	724	481	728	684	484	602	183
営業利益	1	357	10	174	16	114	5	97	6	▲43	▲93	▲183	124	▲107	28	▲1,228	▲169	▲179
経常利益	3	371	9	160	6	111	2	88	0	85	▲92	▲106	143	19	27	▲1,054	▲164	▲165
当期純利益	▲17	167	2	▲128	1	65	1	39	▲4	65	▲92	▲106	72	19	79	▲1,054	▲165	▲166
当期末処分利益	75	167	▲188	161	41	9	13	110	▲11	▲259	▲87	▲169	278	5	▲8	▲2,309	▲1,110	N.A.
■財政状態																		
総資産	2,113	2,421	753	646	1,336	982	519	786	2,231	1,293	1,167	1,229	952	1,399	452	3,382	931	1,257
総負債	320	2,093	602	385	1,272	190	487	296	2,205	839	704	719	274	1,385	144	5,593	431	2,063
純資産	1,792	327	151	260	63	792	32	489	25	454	463	509	677	14	307	▲2,210	500	▲805
資本金	1,570	160	100	100	22	783	20	349	30	712	550	679	400	10	315	98	1,610	403

クラブ名	J2											
	札幌	仙台	山形	水戸	草津	横浜FC	湘南	甲府	京都	徳島	福岡	鳥栖
決算期	平成17年12月期	平成18年1月期	平成18年3月期	平成18年1月期	平成18年1月期	平成18年1月期	平成18年1月期	平成18年1月期	平成17年12月期	平成18年1月期	平成18年1月期	平成18年2月期
■経営成績												
営業収入	1,254	1,607	582	310	518	642	733	670	2,058	596	1,220	428
（広告料収入）	404	425	85	81	165	274	336	246	1,308	265	581	143
（入場料収入）	402	655	93	50	85	139	133	159	245	34	237	148
（Jリーグ配分金）	173	138	110	103	109	116	111	178	153	104	120	102
（その他）	274	389	294	75	159	113	153	87	352	193	282	35
営業費用	1,391	1,948	655	301	642	726	731	579	1,830	549	1,243	702
（事業費）	1,202	1,741	533	210	443	538	541	419	1,435	336	908	506
内選手・チームスタッフ人件費	498	1,091	330	133	N.A.	268	352	262	N.A.	N.A.	N.A.	249
（一般管理費）	188	207	122	91	N.A.	188	190	161	395	213	335	196
営業利益	▲136	▲341	▲73	8	▲124	▲84	2	91	228	47	▲23	▲274
経常利益	57	▲162	▲73	18	▲115	▲67	2	93	255	36	▲19	▲272
当期純利益	55	▲162	▲73	18	▲132	▲67	0	50	158	20	▲21	▲272
当期末処分利益	▲2,598	▲1,907	20	▲100	▲281	▲175	▲288	▲371	▲3,392	▲5	▲3,118	▲332
■財政状態												
総資産	1,126	977	297	72	217	104	206	278	1,000	516	449	151
総負債	1,168	556	62	99	392	50	125	315	787	112	196	311
純資産（山形は正味財産）	▲42	421	235	▲26	▲174	53	81	▲36	213	403	252	▲159
資本金（山形は基本財産）	2,556	2,328	0	74	107	228	369	335	3,605	409	3,370	161

【注意】
●N.A.:各クラブの方針により非開示。
●財政状態について、記載金額は百万円未満の端数を切り捨て表示。
●浦和、川崎F、大分の決算期間は平成17年4月1日～平成18年1月31日。

スポーツクラブセミナーを後援

Jリーグは、財団法人日本スポーツクラブ協会、全国スポーツクラブ連絡協議会が主催する「第8回スポーツクラブセミナー」を後援する。同セミナーは、「スポーツ振興基本計画」に基づいた総合型地域スポーツクラブ育成を実現するため、基本的な考え方および具体的な事業実施方策について研究・討議するもので、11月13、14日に東京・渋谷区で開催される。

スポーツターフ研修会を後援

Jリーグは、昨年度に引き続き財団法人都市緑化技術開発機構および株式会社日本フットボールヴィレッジが主催する平成18年度「スポーツターフ管理者のための研修会」を後援する。同研修会は、高度な管理技術が要求されるスポーツターフ管理者向けに平成12年度から毎年行われており、今年は10月2～6日にJヴィレッジ(福島県)で開催される。

8都県市「エコスタジアム～スタジアムからごみを減らそう!」を後援

Jリーグは、8都県市(埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、横浜市、川崎市、千葉市、さいたま市)の廃棄物問題検討委員会が実施する、3R(スリーアール)普及促進キャンペーン『Eco Stadium ～スタジアムからごみを減らそう!』を後援する。

これは、同委員会が実施する「3R(スリーアール)推進月間」(10月1～31日)の活動の一環で、8つの自治体内で行われるJリーグ公式戦17試合10会場にて、各主管Jクラブが、3R「リデュース(Reduce)、リユース(Reuse)、リサイクル(Recycle)」をテーマに、「タンブラーの持参促進」「リユースカップの使用」「ごみの分別回収」などを呼びかける。また、大宮、千葉、東京Vの試合会場では、飲料品販売の際にリユースカップのデモンストラーションを実施し、3Rの理解促進を図る。

OB交流会実施

Jリーグキャリアサポートセンターは、現役選手のキャリアデザイン支援を目的に、8月から「OB交流会」を実施している。本企画は、JリーグのOBなどを各クラブに派遣し、現役時代から現在に至るまでの経験を語ってもらい、現役選手が不安を持ちがちな将来のキャリアデザインの参考にしてもらうことを目的に、2002年から実施している。5年目となる今年は、相澤雅晴(ラグビー)、青島健太(プロ野球)、有森裕子(マラソン)、荻原健司(ノルディック複合)、中垣内祐一(バレーボール)の各氏など、サッカー以外のスポーツ界OBにも参加してもらい、より多様な経験を選手に伝える機会を提供している。



8月29日、横浜FC・荻原健司氏

Jリーグ百年構想



©J.LEAGUE/PHOTOS



©J.LEAGUE/PHOTOS

若宮小学校 芝生開き

9月6日、東京・中野区立若宮小学校で芝生開きが行われ、「F C 東京・Jリーグ百年構想サッカー教室」を開催した。若宮小学校は、東京都の「公立学校運動場芝生化事業」により、中野区では最初の校庭芝生化の小学校となった。

当日はあいにくの雨で、サッカー教室は体育館で行われたが、F C 東京のコーチ、松尾直人選手とMr. ピッチが訪れ、リフティングやシュートなどを披露した。中澤保夫校長は「プロの技に子供たちの目が輝いた。芝生の上で元気に遊ぶ姿を見るのが楽しみです」と話した。

2006Jリーグ百年構想ポスター 第2弾「スポーツ教室」編 『Jリーグ・アカデミーが会った子供たち、48万1764人』

Jリーグ百年構想が提唱する校庭の芝生化やスポーツ振興活動は全国に広がり、“地域に根ざしたスポーツクラブ”に共感し、Jクラブ入りを目指す地域やサッカークラブも増えてきている。

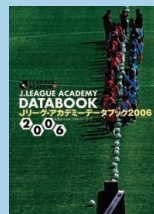
2006年Jリーグ百年構想ビジュアル第1弾『芝生の小学校』編では、全国で1920校にまで広がった芝生の校庭を取り上げた。第2弾『スポーツ教室』編では、JリーグやJクラブが取り組む地域のスポーツ振興活動の広がりを通して、Jリーグ百年構想の夢が一步一步実現している様子をビジュアル化した。

Jリーグは、全国のJクラブを拠点に、子供たちの健全な育成を目指す「Jリーグ・アカデミー」の活動を展開しているが、昨年度、サッカースクールや巡回指導を通じて触れ合った子供たちの数は、48万1764人にのぼり、メインコピーとして使用している。(「Jリーグ・アカデミーデータブック2006」より)



「Jリーグ・アカデミーデータブック2006」

Jリーグは、子供たちの健全な育成とJクラブの一貫指導体制の確立を目指すJリーグ・アカデミーの活動を中心に、全31クラブの下部組織活動状況を「Jリーグ・アカデミーデータブック2006」にまとめた。2005年度にJリーグ全31クラブの活動を通じて出会った子供の数は48万1764人にのぼり、大人も含めると67万8200人がサッカースクールやスポーツ教室に参加した。





Interview

基本は地域密着 海外で見たサッカー文化を 日本でも実現していきたい

犬飼 基昭 Jリーグ専務理事に聞く

——専務理事に就任されて2カ月がたちました。

犬飼: まだ、新入社員ですからね。ただ、ひとつのクラブを見るのとは視点の違いです。また、クラブのように今日すぐに決めないといけないというプレッシャーはないかもしれません。さまざまな関係の中で、いろいろな事情を考慮して物事を決めていかないといいません。

——サッカー先進国であるヨーロッパのサッカーを見てこられた。

犬飼: 海外生活は20年近くになりますが、海外で見たサッカー文化をぜひ日本にも実現していきたいと考えています。ヨーロッパには、どんな小さな村にも、スポーツクラブがあります。人々はそこで好きなスポーツを楽しみ、クラブの頂点にはプロのチームがある。日本はまだまだ社会が変わっていない。午後の5時に会社が終わった後の過ごし方が乏しいんです。せいぜい焼き鳥屋に行くくらいです。

ヨーロッパでは、学校という横社会で知識を学ぶ。そして、放課後には、スポーツクラブでさまざまな年代の人たちとスポーツを楽しむ。そこには縦社会があり、社会性や人間性が培われる。縦と横のバランスがよく取れています。一方、現在の日本では、社会に出るまでに横社会しか経験できない若者が多い。社会のほうも、問題意識がない。

ヨーロッパ滞在中、「Jリーグ百年構想」の考え方を見て、日本は将来こうなるんだ、それを実現するのはJリーグしかない、と強く感じました。縦社会を経験する場を作り、提供していくことがJリーグの社会的役割であると思っています。

——今後、具体的に取り組んでいきたいことは。

犬飼: 浦和(レッズ)での4年間にJリーグに対して望んでいたことを実現したいと思っています。

まず何よりもスケジュール調整です。JFA(日本サッカー協会)とコミュニケーションをとりながら、365日しかない日程をいかにうまく使うか。移籍や国際ショナルマッチデーのことも考慮し、シーズン移行についても、平行して議論していきたいと思っています。

また、レフェリーのレベル向上についても関心を持っています。Jリーグは、毎週数万人の観客と数億円の収入によりプロスポーツの興行をしています。選手もレフェリーも興行の意味をよく理解して、感情的にならず冷静にピッチに立ってほしい。これまでの努力を継承しながら、JFAと一緒に少しずつ動き出しています。

——クラブの経験をどう生かしていきたいか。

犬飼: とにかく基本は地域密着です。クラブによって、地域とのかかわりがまだまだ薄いところがある。いまだに親会社に全面的に頼っているクラブもある。地域と一体にならない限り、Jリーグ百年構想の実現はできません。地域の特性、経営規模や事業性が異なりますから同じようにはいきませんが。

2万人のスタジアムなら、そこがいっぱいになるように地域とともに努力するわけです。ヨーロッパにはその規模のクラブがたくさんありますから。

各クラブのトップの方々には、いかに地域での存在感を高められるか、地域社会に貢献できるか、といったことに問題意識を持って、それぞれ役割を果たしていただきたいと思っています。

——そのほかには

犬飼: トップチームが輝いて、求心力を持たなければ人々は関心を示してくれません。人々が関心を示してくれたところに、さまざまな仕掛けをしていく。それが興行として成功するための経験であり順番であると思っています。

Jリーグ事務局には、もっと現場を歩いて、感度を上げていってほしい。クラブはまだまだ困っている。現場に出歩き、第一線の意見を吸い上げ、共に行動に移していくことが必要です。

Jリーグは14年前に川淵(三郎、現JFAキャプテン)さんがものすごいパワーを使って立ち上げ、鈴木(昌、前Jリーグチェアマン)さんがそれを継承してクラブ経営の安定に尽力された。鬼武(健二)チェアマン体制は、第2ステージのスタートだと認識しています。新体制になって少しずつ動き出してきたという感触を持っていますし、全員の認識を一つに、前に進んでいきたいと思っています。

Profile

犬飼 基昭 (いぬかい もとあき)

1942(昭和17)年7月5日生

1965年3月 慶応義塾大学商学部 卒業

1965年4月 三菱重工業(株) 入社

1994年4月 三菱自動車工業(株) 海外本部 欧州部長

1994年6月 同上

(株)三菱自動車フットボールクラブ 取締役就任(非常勤)

1997年6月 三菱自動車工業(株) 取締役第二海外事業本部 欧州部長

1998年1月 欧州三菱自動車工業(株) 社長(在オランダ)

2001年6月 三菱自動車工業(株) 常務執行役員(SEO)乗用車国内営業本部長

2002年6月 (株)三菱自動車フットボールクラブ 取締役社長

2006年7月20日 (社)日本プロサッカーリーグ 専務理事就任

写真提供: © J.LEAGUE PHOTOS



「Jリーグニュース」は100%再生紙を使用しています。